

平成22年11月19日

史跡等の指定等について

文化審議会（会長 にしはら 西原 すずこ 鈴子）は、11月19日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、史跡名勝天然記念物の新指定15件、追加指定等24件、登録記念物の新登録2件、重要文化的景観の新選定3件、重要文化的景観の追加選定1件について、文部科学大臣に答申しました。今回答申された史跡等の指定等の詳細については、別紙のとおりです。

この結果、官報告示の後に、史跡名勝天然記念物は3,025件、登録記念物は55件、重要文化的景観は24件となる予定です。

(別紙)

史跡名勝天然記念物

(平成22年11月19日現在)

種別	現在指定件数	今回答申件数			合計(既指定件数と答申件数との合計)
		新指定	解除	統合による減	
史跡 (うち特別史跡)	1,669 (61)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	1,680 (61)
名勝 (うち特別名勝)	359 (36)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	360 (36)
天然記念物 (うち特別天然記念物)	982 (75)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	985 (75)
合計	3,010 (172)	15 (0)	0 (0)	0 (0)	3,025 (172)

(備考)

件数は、同一の物件につき、2つの種別に重複して指定が行われている場合(例えば、名勝及び天然記念物など)、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複指定物件を1件として数えた場合、

現在指定件数は、2,905件

答申後合計件数は、2,920件 です。

登録記念物

種 別	現在登録件数	今回答申件数		合計（既登録件数と 答申件数との合計）
		新登録	抹 消	
遺跡関係	3	0	0	3
名勝地関係	46	2	0	48
動物、植物及び地 質鉱物関係	4	0	0	4
合 計	53	2	0	55

（備考）

件数は、同一の物件につき、2つの種別に重複して登録が行われている場合（例えば、遺跡関係及び名勝地関係など）、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複登録物件を1件として数えた場合、

現在登録件数は、 52件

答申後合計件数は、 54件 です。

重要文化的景観

種 別	現在選定件数	今回答申件数		合計（既選定件数と 答申件数との合計）
		新選定	解 除	
重要文化的景観	21	3	0	24

「新指定・新登録・新選定」答申物件

《史跡名勝天然記念物の新指定》

【史跡】 11件

1 かきのしまいせき 垣ノ島遺跡【北海道函館市】

北海道南部の太平洋に面する海岸段丘上に立地する、縄文時代としては北海道で最大規模の集落遺跡。

2 よこだいどうせいてつせいせき 横大道製鉄遺跡【福島県南相馬市】

8世紀後半から9世紀中頃に属する東北屈指の大規模な製鉄遺跡。

3 かんざきいせき 神崎遺跡【神奈川県綾瀬市】

弥生時代後期の南関東地域の社会のあり方を知る上で重要な環濠集落跡。

4 ふじさん 富士山【山梨県富士吉田市・南都留郡富士河口湖町・鳴沢村，静岡県富士宮市・裾野市・駿東郡小山町】

山梨県と静岡県の境界に聳える我が国最高峰の火山で，我が国を代表する信仰の山。

5 ぎふじょうあと 岐阜城跡【岐阜県岐阜市】

戦国期，織田信長が斎藤氏を破って奪い，天下統一の拠点とした，金華山にある城跡。

6 まつさかじょうあと 松坂城跡【三重県松阪市】

16世紀末に蒲生氏郷によって築造された平山城で，織豊系城郭の特色を備える。

7 こうじんやまこふん 荒神山古墳【滋賀県彦根市】

古墳時代前期末に築かれた近江地域2番目の大規模な前方後円墳。

8 くずはだいばあと 楠葉台場跡【大阪府枚方市】

慶応元年(1865)，江戸幕府が京都防衛のため淀川左岸に造営した台場(関門)跡。

9 えげのやまいせき 会下山遺跡【兵庫県芦屋市】

弥生時代の社会を知る上で重要な，学史的に著名な高地性集落。

10 はざいけこふん 葉佐池古墳【愛媛県松山市】

道後平野に所在する，古墳時代後期の葬送儀礼を知ることができる貴重な古墳。

11 ^{つちまっとうん}内間御殿【沖縄県中頭郡西原町】

琉球王朝第二尚氏の始祖、金丸(のちの尚円王)の旧宅跡に創建された神殿。

【名勝】 1件

1 ^{すぎもと していえん}杉本氏庭園【京都府京都市】

明治初期から大正時代の伝統的な京町家の庭園。^{ざしきにわ}座敷庭・^{ぶつまにわ}仏間庭・^{ろじ}露地等に優秀な造園意匠を認める。

【天然記念物】 3件

1 ^{さかしゅう ふせいごう}坂州不整合【徳島県那賀郡那賀町】

地質学上重要な概念である不整合の典型であるとともに、古生代二畳紀末に起こった秋吉造山運動の論拠となった学史的にも重要な露頭。

2 ^{ごしきの はま よこなみ}五色ノ浜の横浪メランジュ【高知県土佐市】

我が国のような弧状列島が、プレートの沈み込みによる地層の付加(付加体)により形成されたことを世界に先駆けて実証した場所。

3 ^{こつるつ おきつ およ}小鶴津の興津メランジュ及びシュードタキライト【高知県高岡郡四万十町】

^{かいこうがた}海溝型の巨大地震(南海地震等)の震源断層に形成されたと考えられるシュードタキライトが、世界で初めて発見された場所。

《登録記念物の新登録》

【登録記念物】 2件

(名勝地関係)

- ^{きゅうやまざき し べつていていえん}**1 旧山崎氏別邸庭園【埼玉県川越市】**
建築家保岡勝也やすおかかつ やの設計に基づき、大正末に完成した川越の菓子店亀屋かめ やの枯山水と茶庭。
- ^{ふな き し ていえん}**2 船木氏庭園【広島県三原市】**
江戸末から近代における三原地方の商家の別邸庭園。平場、築山など景観は変化に富む。

《重要文化的景観の新選定》

【重要文化的景観】 3件

- ^{く れ みなと りょうしまち けいかん}**1 久礼の港と漁師町の景観【高知県高岡郡中土佐町】**
港を核として形成された街並みと鰹漁によって形成された独特の文化的景観。
- ^{お ち か しょう ぶん か てきけいかん}**2 小値賀諸島の文化的景観【長崎県北松浦郡小値賀町】**
島嶼間の流通・往来によって形成される独特の文化的景観。
- ^{あまくさし さきつ ぎょそんけいかん}**3 天草市崎津の漁村景観【熊本県天草市】**
カケなど独特の施設を伴った、流通・往来の拠点としても機能した漁村の景観。

史跡等の指定等

《 史跡の新指定 》 11件

1 ^{かきのしまいせき} 垣ノ島遺跡 【北海道函館市】

垣ノ島遺跡は、北海道南部の太平洋に面する海岸段丘上、標高 32m から 50m の緩斜面に高密度で分布する多数の縄文時代遺跡の中でも、縄文時代早期前半から後期後半までの集落変遷が途切れることなく追える唯一の遺跡である。また、遺跡の規模は南北 500 m、東西 200m の約 100,000 m² に及ぶ、他のどの遺跡よりも大きく、当該地域においては拠点的な集落遺跡として位置付けることもできる。特に、早期後半の土坑墓群とそれらに副葬された多数の足形付土版あしがたつきどばんの存在、前期前半には約 5,800 年前に噴火した駒ヶ岳を起源とする火山灰と軽石の堆積により、生活痕跡が一時的に全くなくなること、中期には一辺 10m ほどの竪穴建物群が急増して遺跡の規模が最大級になり、出土土器から東北北部との交流がうかがえること、後期初頭から前半に構築された盛土遺構は、南北 120 m、東西 100m の北側が開く「コ」字状を呈し、北海道南部から東北北部の盛土遺構の中でも最大級の規模を有すること、さらには、後期後半を最後に遺跡が全くなくなる事実等は、自然環境との関係を含め、北海道はもちろん東北北部を含めた北日本の縄文時代遺跡のあり方を考える上で極めて重要である。

2 ^{よこだいどうせいてつ いせき} 横大道製鉄遺跡 【福島県南相馬市】

横大道製鉄遺跡は、太平洋岸から 7 km 内陸に入った標高 50m の丘陵上に立地し、8 世紀後半から 9 世紀中頃において、製鉄・製炭を行った大規模な生産遺跡である。細長い丘陵上のなかでも、その北側には製鉄炉を伴う環状遺構はいさいば・廃滓場が、中央部と南側には木炭窯が構築され、それらがセットとして良好に遺存する。環状遺構とは、直径 20m に土を環状に盛り上げ、その内部で製鉄を行うために、複数の竪形炉を同時に稼働させる構造の遺構である。木炭窯はすべて窖窯構造あながまで全長 10m、幅 1.5m の規模を有し、その多くが重複することから、同じ場所で繰り返し操業されたことがわかる。福島県域の海岸一帯では浜砂鉄が豊富で、古代の宇多郡と行方郡なめかたは製鉄が盛んな地域であった。そのなかにあつて横大道製鉄遺跡は、8 世紀後半から 9 世紀中頃に属する製鉄炉・廃滓場・木炭窯がセットで良好に遺存し、その規模や遺構の数量も東北屈指の内容である。律令国家による東北経営をはじめ、当時の政治的・社会的状況を知る上でも重要な遺跡である。

3 ^{かんざいせき} 神崎遺跡 【神奈川県綾瀬市】

神奈川県の中央部付近を流れる相模川の支流目久尻川に面した標高 24m、沖積地との比高差約 11m の台地上に立地する、南北 103m、東西 65m、面積 5,000 m² ほどの弥生時代後期の環濠集落。環濠は、幅・深さともに 1.8m 前後で断面 V 字形を呈する。環濠内には、平面形が楕円形及び方形の竪穴建物 9 棟を確認した。この遺跡を特徴付けるのは、95% 以上が東海西部系（愛知県東部）の土器であるという点である。弥生時代後期の南関東では東海地域と密接な関係があったと考えられている。この遺跡をはじめとして相

模川流域の遺跡では東海西部の影響を受けた土器が出土するが、95%以上を占める遺跡はここだけである。しかも、土器の胎土分析から、製品がもたらされたのではなく、当該地から人々の移住があったと考えられるようになった。竪穴建物が東海地域で特徴的な形態であることも、このことを裏付ける。

このように、本遺跡は弥生時代後期前半という短期間に営まれた環濠集落である。そして、東海西部から移住のあったことを明らかにしたことは、弥生時代後期の東海から南関東の社会のあり方を知る上で重要で、こうした集落が完全な形で遺存している希少な例でもある。

4 ^{ふじさん}富士山 【山梨県富士吉田市・南都留郡富士河口湖町・鳴沢村，静岡県富士宮市・裾野市・駿東郡小山町】

富士山（標高 3776m）は山梨県と静岡県の境界に聳える我が国最高峰の火山で、我が国を代表する信仰の山である。『万葉集』には日本の鎮めの神と歌われた。奈良時代から平安時代にかけて噴火の記録を残し、浅間大神として神階奉授を繰り返した。久安5年（1149）に駿河国の末代上^{まつだいしょうにん}人が富士山頂に大日寺を建立して以後、修験と結びついた宗教者による登拝が展開していった。仏教と習合し、浅間大菩薩とも称され、その本地は大日如来とされた。戦国時代には一般信者の登拝へと発展し、江戸時代には富士講による登拝の隆盛期を迎え、登拝道や宿泊施設が整えられ、祈禱を行うとともに富士参詣の仲立ちを行う御師^{おし}やその宿坊が発達した。明治の神仏分離令により、山体から本地仏等の仏教色が排除され、鉄道の発達等により、登拝道や御師集落の盛衰がもたらされた。

このように、我が国の古代から近代（現代）に至る山岳信仰のあり方を考える上で重要であることから、信仰の核心をなす富士山八合目以上の山頂部と各社寺、及び登拝道のうち条件の整った吉田口登拝道（登山道）を指定しようとするものである。

5 ^{ぎふじょうあと}岐阜城跡 【岐阜県岐阜市】

岐阜城跡は、稲葉山城、井ノ口城とも呼ばれ、戦国時代に美濃国を治めた斎藤氏の居城として、次いで織田信長が居城とした城跡である。山上の城郭と山麓の居館を中心に金華山（標高 329m）全体を天然の要害として機能させている。信長は、永禄 10 年（1567）、城を斎藤氏より奪い、岐阜城と名を改めた。信長は 9 年間在城し、その間、「天下布武」印を使用し、永禄 11 年には、足利義昭を擁して京都に上るなど、ここを本拠に天下統一を目指した。永禄 12 年、ポルトガル人の宣教師ルイス・フロイスが岐阜城に信長を訪ねている。信長が安土城に移った後も、拠点的な城郭として機能するが、関ヶ原の戦いにおいて当時の城主織田秀信が西軍に属したことから、東軍の攻撃を受けて落城し、その後、家康によって廃された。近世には尾張藩の「御山^{おやま}」として管理がなされた。山上部には戦国時代のものと考えられる石垣や井戸、人為的な平坦面等が多数残され、また、山麓部には発掘調査の結果、巨石列とともに岩盤等の自然地形も利用して館への導入をはかっていることや、大規模な造成を行い、少なくとも 4～5 段以上の雛壇状の平

坦面をつくりだし、庭園等も設えていることが判明している。近世城郭の成立を考える上で重要である。

6 まつさかじょうあと 松坂城跡 【三重県松阪市】

松坂城跡は、松阪市街地のほぼ中央部に位置し、伊勢平野の中央を流れるさかない阪内川と櫛田川に挟まれた標高 35m 余りの独立丘陵上に築造された平山城である。

松坂城は、近江出身の武将、がもうじさと蒲生氏郷が 16 世紀末に築城したもので、その後、元和 5 年（1619）に、徳川頼宣が和歌山に封ぜられると同時に、松坂はその統治下に入り、明暦 3 年（1657）には、城代が置かれた。

城の縄張りとしては、大手を北東に、搦手を南東に置き、本丸を中心に二の丸・三の丸・きたい希代丸・隠居丸などの曲輪を配置する。かつて本丸には天守が建てられ、本丸・二の丸には櫓・門・塀などの建築物が存在していた。本丸・二の丸ほかの各曲輪を形成する法面には野面積みを主体とする豪壮な石垣が築かれており、この城郭の見所の一つとなっている。

発掘調査では、金箔を押した瓦など近世初期の瓦が大量に出土したほか、建物の礎石が検出されており、石垣や建物は織豊系城郭としての特徴を顕著に有するものとして、また御三家の一つ、和歌山藩領の飛地内に所在し、その支配の拠点となった城郭として明治期まで存続した点で特筆されるなど、近世の政治・軍事を知る上で貴重である。

7 こうじんやま こふん 荒神山古墳 【滋賀県彦根市】

琵琶湖東側の湖東平野に聳える独立丘陵、標高 284m の荒神山の山頂から尾根頂部に所在する古墳時代前期の前方後円墳である。発掘調査の結果、墳長 124m、後円部直径 80m、前方部長 53m、くびれ部幅 52m の 3 段築成の古墳であることが明らかとなった。墳丘斜面には葺石が施され、テラスは円礫による礫敷であった。テラス及び墳頂部には、円筒埴輪、家形・衣笠形・靴形などの形象埴輪が樹立されていたものとみなされ、その特徴から、古墳時代前期末に築造されたと考えられる。埋葬施設の発掘調査は行われていないが、竪穴式石室であった可能性が想定される。

本古墳は、古墳時代前期末に築造された近江地域で二番目という大規模な前方後円墳である。近江地域では、古墳成立当初から前方後円墳が営まれるなかにあって、湖東地域はいち早く前期前葉から、前方後円墳が築造されたなかの 1 基で、3 段築成、葺石と埴輪を伴う、いわゆる定型化した畿内型の前方後円墳である。立地から、被葬者は琵琶湖の水運と関わりがあったことも推測される。

このように、本古墳は、古墳時代前期の近江地域における政治状況、さらには大和政権と日本海及び東海地域との関係を知る上で重要である。

8 くずは だいば あと 楠葉台場跡 【大阪府枚方市】

楠葉台場跡は、幕末、江戸幕府が京都警衛のため、おとこやま男山丘陵西麓の淀川左岸に築造した軍事施設及びかんもん関門施設で、やわた八幡関門、ぶんきゆう楠葉関門ともいう。文久 3 年（1863）、

きょうと しゅご しよくまつだいらかたもり
京都守護職松平容保の建白に基づき、幕府が築造したもので、げんじ
元治元年（1864）着工、慶応元年（1865）竣工した。台場造営の背景には、当時京都で横行した尊王攘夷派や長州藩等への対策として、京都への侵入を取り締まろうとする幕府側の意図があったと考えられる。台場は各藩が交代で警備に当たり、ぼしんせんそう
戊辰戦争の舞台ともなった。台場は南・西面に西洋式のりょうほ
稜堡を備え、南・西面堀は石垣造りで、なせきるい
南面石塁の前面には6間幅の堀を設け、3カ所に砲座を設ける等、大坂側を意識した構造であった。台場築造に伴い、淀川土手を走るきょうかいどう
京街道は台場内部を通るように付け替えられ、台場は街道の関門としても機能した。平成19・20年度に枚方市教育委員会が発掘調査を行い、なせきるい
南面堀石垣基底部の根石列と、なせきるい
洞木の基礎部、京街道の痕跡等を検出し、台場の外郭線や南面堀が水田畦畔等の地割として良好に残存していることを確認した。京都を中心に展開した幕末の緊迫した政治・軍事状況を理解する上で重要である。

9 えげのやまいせき 会下山遺跡 【兵庫県芦屋市】

六甲山系南部の一つ、標高201mを最高所とする前山尾根を中心に存在する弥生時代中期から後期の集落跡。昭和30年代に発掘調査が行われ、遺構としては、竪穴建物、焼土坑、どこうぼ土坑墓、柵列等、遺物としては、弥生時代中期中葉から後期中葉にかけての近江、東摂津、中河内、播磨、讃岐などからの搬入土器を含む多数の土器、石器、さらには逆刺をもつ大型鉄鏃、鑄造鉄斧などの鉄製品や列島では極めて珍しい漢式三翼鏃も確認されている。高地性集落の構造を明らかにしたという点で学史的に重要。近年の調査では、丘陵斜面において竪穴建物、段状遺構、焼土坑、ピットなどを確認し、集落域は丘陵斜面に広がるものと考えられるようになった。

このように、本遺跡は弥生時代中期中葉から後期中葉にかけての高地性集落である。高地性集落については、弥生時代に社会的緊張関係があり、見張り場として、逃げ城としての機能をはじめさまざまな機能・性格が論じられてきた。本遺跡は、学史的に重要な高地性集落であるとともに、高地性集落の機能や性格を考える上で、さらに、弥生時代の政治情勢、生活や交流といった社会のあり方を知る上でも重要である。

10 はざいけこふん 葉佐池古墳 【愛媛県松山市】

葉佐池古墳は、道後平野の北東部、石手川水系の小野川左岸の丘陵状に位置する、6世紀中頃に築造され、7世紀初頭まで追葬が行われた楕円形を呈する古墳である。平成4年、開墾中に偶然に発見され、平成5年から20年にかけて、松山市教育委員会により5次に及ぶ発掘調査が実施された。

墳丘は長径約41m、最大幅約23mの楕円形で、ひとつの墳丘に5基の石室が築かれた。発掘調査された1・2号石室は、ともに両袖式の横穴式石室で、盗掘を受けていないため、最終埋葬時の形態をよく留めている。また、1号石室から出土した人骨のうち1体にはハエのさなぎ蛹の殻が多量に付着していた。付着していたハエの種類とその習性から、この被葬者は死後、1週間から十数日間、一定の光量のある場所に安置されてい

たことが判明した。

このように、葉佐池古墳は、初葬から最終埋葬に至るまでの間に行われた、数回の副葬や儀礼行為を復元することができるだけでなく、被葬者の死から埋葬までの期間や、その間遺体が置かれた環境が判明するなど、古墳時代後期の葬送儀礼を知る上で重要である。

11 うちまうどうん 内間御殿 【かなまる 沖縄県中頭郡西原町】

琉球王朝第二尚氏の始祖、かなまる 金丸（のちの尚しょうえん 円王，伊是名島出身）の旧宅跡に創建された神殿を中心とする祭祀施設である。金丸は第一尚氏の尚しょうたいきゆうおう 泰久王の即位とともに、内間領主に任じられた。尚泰久王の死去後、王位に就いた尚徳王と対立するが、のち、群臣の推挙により尚円王として琉球国王の座に就いた。尚円王の死後、第二尚氏所縁の地として旧宅跡の聖地化が進められた。それは、第9代尚はねじちよう 質王の代、羽地朝しゅう 秀（向しょうしょうけん 象賢）の進言により、旧宅跡に茅葺きの神殿（東江御殿）が建設されたことに始まる。第13代尚敬王の時には管理を強化するために、竹垣を石垣に替え、さらに「先王旧宅碑」を建設するとともに、自筆へんがく 扁額を掲げて聖地としての完成をみた。周辺には地域の住民の手で建てられた西江御殿や、嘉手苺村の創始家とされる東江家、村落祭祀に伴って形成されたと考えられるはいしよ 拝所等が集中する。沖縄戦により被害を受けながらも、東江御殿を取り巻く石垣は良好に遺存し、古写真により、焼失以前の堂宇の様子も知ることができる。資史料により琉球王朝の聖地として整備されていく過程を追うことができるとともに、沖縄における祭祀信仰のあり方を知る上で重要である。

《 名勝の新指定 》 1 件

1 すぎもと していえん 杉本氏庭園 【きょうと 京都府京都市】

大火罹災後の明治3年（1870）に建築が上棟し、大正時代にかけて順次完成を遂げた伝統的な京町家の庭園。杉本氏は、呉服商「奈良屋」として明和4年（1767）に現在地に移転した後、下総方面に販路を拡大しつつ、千葉の店舗を昭和5年（1930）に百貨店としたのを契機として、京本店を専用住宅へと転用した。

主屋は綾小路通あやのこうじどおり に南面し、正面の店庭みせにわ から玄関庭げんかんにわ・台所庭だいどころにわを経て、奥の一群の蔵に面する洗い庭あら、主屋西側の露地にも通ずる通り庭とおりにわに至るまで、通風・採光など日常生活・生業上の目的とも密接に関係しつつ、土間・石敷から成る通路状の空間が屋内から屋外へと機能的に連続する。また、奥座敷おくざしきに北面して垣に囲まれた座敷庭には、縁先の沓くつ脱石ぬぎいしから伽藍礎石せせきを象った踏分石ふみわきいしを介して北面の庭門ていもんへと飛石が打たれ、縁先の手水鉢・燈籠などの景物が狭い空間に程よく配置されている。仏間前室の北側には、黒色の扁平な円礫を敷き詰めた上に水盤のみを置いた狭隘な仏間庭ぶつまにわがあり、廁へと通ずる延段のべだんの通路とともに、一木一草をも拒む極めて意匠性の高い造園空間を構成している。主屋

西側の露地は仏間の南に位置する茶室の庭で、明治後期から昭和初期にかけての建築の増改築により改変されていることが窺える。

このように、杉本氏庭園には、洗い庭・通り庭などの生活・生業のための空間とも機能的な連続性を保ちつつ、主屋に囲まれた狭小な空間に座敷庭・仏間庭・露地を配置するなど、接客のための芸術性に富んだ優秀な造園意匠が認められ、その芸術上・観賞上の価値は高い。

《 天然記念物の新指定 》 3件

1 さかしゅう ふ せいごう 坂州不整合 【徳島県那賀郡那賀町】

徳島県那賀町坂州の坂州木頭川沿いでは、古生代末のペルム紀と中生代三畳紀の地層との間の不整合である坂州不整合がみられる。坂州不整合は、昭和28年に発見された(市川他、1953)。当時中央構造線より北側(西南日本内帯)の地域では、秋吉造山運動と呼ばれる、古生代末から中生代始めにかけて起こった大規模な造山運動が想定されていた。坂州不整合の発見は、秋吉造山運動という日本列島の骨格を形成する造山運動が、中央構造線の南側(西南日本外帯)にまで及ぶ地史学上の大事件であったことの論拠となる大きな発見であった。しかし1970年代からのプレートテクトニクス説の台頭、さらに1980年代急速に進展した、四万十帯での付加帯の研究などの成果に基づく日本列島の地史の再検討の結果、坂州不整合は、古生代ペルム紀の付加帯中のメランジュと中生代後期三畳紀の浅海堆積物との間での傾斜不整合と考えられるようになった。

坂州不整合は、1950年代、地向斜造山運動論に基づく日本列島形成論の重要な論拠となった不整合であり、その後のプレートテクトニクス説の台頭により、新たな解釈がされるようになった学史的に重要な露頭である。近接する、坂州不整合よりも新しい不整合と併せて地質現象の理解に欠かせない不整合現象を示す露頭を「坂州不整合」の名称で天然記念物に指定するものである。

2 ごしきの はま よこなみ 五色ノ浜の横浪メランジュ 【高知県土佐市】

現在の日本列島の骨格は、3億年ほど前からの海洋プレートの沈み込みに伴う地層の付加作用により形成されてきたことが明らかになってきた。高知県土佐市横浪半島の五色ノ浜の海岸には、こうして付加された四万十帯と呼ばれる地層が典型的にみられる。

海嶺で形成された海洋プレートは、やがて日本列島付近に到達し、沈み込みを開始する。この間、海洋プレート上には、プレートの移動に伴い玄武岩・石灰岩・チャート・多色頁岩などの地層が順番に堆積してゆく。さらに、当時の陸地に近づいた海洋プレートの地層の上には、陸側から供給された砂や泥の地層が堆積する。こうした地層の順番は、海洋底層序と呼ばれている。海洋底層序を示す地層群の一部は、プレートが沈み込む際にこそげ取られて、日本列島に付け加わってゆく。こうして付け加わった地層が、付加体である。付加体は、海洋プレートの上に堆積した地層と、陸側から供給された砂

岩や泥岩の地層が、複雑に混じり合ったり著しく変形したメランジュと呼ばれる地層と比較的変形の少ない砂岩泥岩の互層（整然層）の部分とからなる。

1970年代以降、我が国のような弧状列島は、海洋プレートとそれに伴った地層の付加により成長してきたことが分かってきたが、五色ノ浜の横浪メランジュは、このような考え方が提起され、世界に先駆けて証明された場所として世界的にも重要である。

3 こつるつ おきつ およ 小鶴津の興津メランジュ及びシュードタキライト 【高知県高岡郡四万十町】

現在の日本列島の骨格は、3億年ほど前からの海洋プレートの沈み込みに伴う地層の付加作用により形成されてきたことが明らかになってきた。高知県四万十町小鶴津の海岸には、こうして付加された四万十帯と呼ばれる地層が典型的にみられる。

小鶴津の海岸では、上述のプロセスで付加された興津メランジュと、それと断層で接する北側の野々川層の整然層からなる典型的な付加体の地層が分布する。興津メランジュの分布の幅は約1kmで、黒色頁岩を基質とし、チャートに乏しく、枕状溶岩などの玄武岩が多量に産する。黒色頁岩には若干の凝灰岩層や砂岩層がレンズ状に含まれる。

興津メランジュと北側の野々川層とを境する興津断層からは、高速での断層運動により岩石が溶けた証拠とされるシュードタキライトが発見されている。シュードタキライトは、過去の地震を起こすような断層運動の証拠となるもので、プレートの沈み込み帯からの発見は世界で初めてである。現在の四国沖の南海トラフでは、海洋プレート（フィリピン海プレート）が沈み込みを続け、付加体が形成されつつあり、また南海地震などの海溝型の巨大地震を発生させている。

興津メランジュの中には、プレートの沈み込み帯としては世界で初めて発見されたシュードタキライトがあり、南海トラフで繰り返されている巨大地震の発生メカニズムを知る上での手掛かりになるものでもあり、地震防災上も重要である。海洋プレートの沈み込みに伴う付加体から形成されてきた日本列島の形成メカニズムを示す興津メランジュと、興津メランジュに表れているシュードタキライトを併せて天然記念物に指定しようとするものである。

《 特別史跡の追加指定 》 2件

1 みずきあと 水城跡 【福岡県太宰府市、大野城市、春日市】

天智天皇3年（664）、唐・新羅の侵攻に備えて大宰府防衛のため築造された防御施設。全長約1.2kmに及ぶ土塁と濠からなり、古代の軍事を知る上で貴重である。今回、博多湾側及び大宰府側の濠跡の一面、東門跡前面の一面を追加指定する。

2 はる つじ いせき 原の辻遺跡 【長崎県壱岐市】

長崎県の北方に浮かぶ壱岐島南東部の台地から平野部に所在する弥生時代中期から後期にわたる大規模な環濠集落で、中国の歴史書『魏志』倭人伝に記載された「一支国」

の中心集落遺跡と考えられている。今回、集落西側で石による護岸を施された自然河川を検出した部分等を追加指定する。

《 史跡の追加指定及び名称変更 》 2件

1 佐渡金銀山遺跡 【新潟県佐渡市】 (旧名称 佐渡金山遺跡)

近世から近代、我が国を代表する金山。慶長6年(1601)に相川で金銀山が発見されて以降、飛躍的な発展を遂げた。道遊の割戸、佐渡奉行所跡、大立竪坑等が残る。今回、戦国時代後期から採掘された鶴子銀山跡を追加指定するとともに、名称を変更する。

2 藤原京跡 朱雀大路跡 左京七条一・二坊跡 右京七条一坊跡 【奈良県橿原市】 (旧名称 藤原京朱雀大路跡)

持統天皇8年(694)から和銅3年(710)まで営まれた古代都城の京域の遺跡。中央道路である朱雀大路跡が既に史跡に指定されている。今回、藤原宮の南面に位置し貴族の邸宅や官衙が立地していた左京七条一坊・二坊跡、右京七条一坊跡の一角を追加指定するとともに、名称を変更する。

《 史跡の追加指定及び一部解除 》 1件

1 金剛寺境内 【大阪府河内長野市】

西除川により形成された南北に細長い通称天野谷に営まれた寺院。五仏堂・御影堂等の三宝院伽藍と金堂等の主要伽藍、及び周囲の子院からなる。南北朝時代には南朝の後村上天皇の行宮となったことで著名。今回、天野谷に展開する境内全域を追加指定する。

《 史跡の追加指定 》 16件

1 根城跡 【青森県八戸市】

中世から近世にかけて、南部氏が北奥羽地方支配の拠点として機能した城跡。本丸、中館、東善寺館、岡前館等の曲輪群からなる。今回、城跡南部の三番堀の一角、沢里館の土塁等を追加指定する。

2 せんだいこおりやまかん が い せきぐん 仙台郡山官衙遺跡群

こおりやまかん が い せき 郡山官衙遺跡

こおりやまはい し あと 郡山麁寺跡

【宮城県仙台市】

7世紀半ば大化改新の頃に成立し、奈良時代前半に造営される多賀城の成立期前後まで営まれていた官衙遺跡とそれに伴う寺院跡。陸奥における初期の城柵で、陸奥地域の統治を行った中枢施設と考えられる。今回、条件が整った部分を追加指定する。

3 くるまつか こふん 車塚古墳

【栃木県下都賀郡壬生町】

車塚古墳は、直径82mの大規模な円墳であり、大型の横穴式石室も現存するなど、当該地域の終末期古墳として重要である。今回、新たな発掘調査で二重目の周濠の存在が明らかになったことから、周濠の存在が想定される部分を追加指定する。

4 だいりつか こふん 内裏塚古墳

【千葉県富津市】

東京湾に面した房総半島のほぼ中央部に所在する、古墳時代中期、5世紀中頃の前方後円墳。墳長144m、周濠を含めた総長は185mに達し、南関東最大で、古墳時代中期の政治や文化のあり方を知る上で重要である。今回、周濠の一部を追加指定する。

5 むさしこくふあと 武蔵国府跡

【東京都府中市】

武蔵野台地上、多摩川が形成した崖の縁辺に位置する古代武蔵国の国府跡。国府の実態を良く示し、古代武蔵国の政治情勢を示す上でも重要である。今回、その西側の計画的に配置された掘立柱建物群等が検出され初期の国司館等の機能が想定されている部分を追加指定する。

6 おだわらじょうあと 小田原城跡

【神奈川県小田原市】

後北条氏代々の手で整備された城跡と近世城郭が複合する、関東支配の拠点城郭。今回、これまでの指定地に連続し、堀の法面や堀底、土塁等の遺存状況の良好な箇所である中世小田原城跡の三の丸外郭と総構に相当する4カ所を追加指定する。

7 おくやまのしょうじょうかん い せき 奥山荘城館遺跡

【新潟県胎内市、新発田市】

新潟県北部、胎内川流域に所在する奥山荘に関連した中世城館など12地点の遺跡。複数の城館跡や墓地などの中世の遺跡と、文書や絵図などから、中世荘園の内容と領主の動向を具体的に知ることができる全国でも数少ない重要な遺跡。今回、鳥坂城跡の山麓居館群を追加指定する。

8 ふるつ はちまんやまい せき 古津八幡山遺跡

【新潟県新潟市】

新潟平野の東縁、信濃川の右岸に沿って延びる新津丘陵上に位置する弥生時代後期の

大規模な高地性の環濠集落。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての北陸地方の社会情勢やその変遷を考える上で重要である。今回、同時期の竪穴建物と新潟県内最大規模の古津八幡山古墳の所在する部分を追加指定する。

9 ^{なな お じょうあと} 七尾城跡 【石川県七尾市】

七尾城跡は、能登半島の七尾湾に面する、室町期の能登守護畠山氏の16世紀の居城である。今回、主郭や二郭に隣接した郭群及び斜面部と三郭を追加指定する。

10 ^{あ ま い せき} 安満遺跡 【大阪府高槻市】

大阪府北東部の、三島平野の東端部に所在する弥生時代の集落跡。居住域、生産域、墓域の関係を時期的にたどることができ、弥生時代の社会を知る上で重要な遺跡。今回、遺構の範囲・内容を確認する発掘調査により関連する遺構が見つかった部分を追加指定する。

11 ^{ふるいち こ ふんぐん} 古市古墳群

^{こむろやま こふん} 古室山古墳	^{せきめんやま こふん} 赤面山古墳	^{おおとりづか こふん} 大鳥塚古墳	^{すけた やま こふん} 助太山古墳	^{なべづか こふん} 鍋塚古墳	^{しろやま こふん} 城山古墳
^{みねづか こふん} 峯ヶ塚古墳	^{はかやま こふん} 墓山古墳	^{の なか こふん} 野中古墳	^{おうしんてんのうりょう こふんがいこうがいてい} 応神天皇陵古墳外濠外堤	^{ほちづか こふん} 鉢塚古墳	
^{やま こふん} はざみ山古墳	^{あおやま こふん} 青山古墳	^{はんしょやま こふん} 蕃所山古墳	【大阪府羽曳野市、藤井寺市】		

古市古墳群に属する応神天皇陵古墳は墳丘長 425m、日本最大の体積を誇る前方後円墳である。墳丘及び内堤は宮内庁の管理下にあるが、外濠外堤に関しては史跡指定し、保護を図ってきた。今回、指定の要件が整った場所を追加指定する。

12 ^{か も い せき} 加茂遺跡 【兵庫県川西市】

兵庫県東南部、伊丹台地縁辺の標高 40mに所在する、面積約 20ha に達する弥生時代中期の大規模集落跡。大阪湾北岸地域の拠点的な集落で、近畿地方の弥生社会のあり方を知る上で重要な遺跡。今回、出入口の遺構など新たに遺構の見つかった個所を追加指定する。

13 ^{はぎおうかん} 萩往還 【山口県山口市、萩市、防府市】

萩往還は、萩から防府三田尻までの約 53 kmに及ぶ、江戸時代の山陰と山陽を結ぶ主要街道。今回、^{こうさつば}高札場としての復元整備が完成した萩側の起点となる^{から ひふだばあと}唐樋札場跡を追加指定する。

14 ^{つ や ざき こ ふんぐん} 津屋崎古墳群 【福岡県福津市】

福岡県北部の玄界灘に面した南北 7 km、東西 2 kmの範囲に所在する、5世紀前半から7世紀前半の古墳群。前方後円墳 16 基、円墳 43 基、方墳 1 基からなり、北部九州の代表的な首長墓群として重要である。今回、^{しんばる}新原・^{ぬ やま}奴山古墳群と呼ばれる地区において条件の整った個所を追加指定する。

15 ちくぜんこくぶんじあと 筑前国分寺跡 【福岡県太宰府市】

奈良時代の天平 13 年 (741), 聖武天皇の詔により全国に建立された寺院跡の一つ。これまでの調査によって, 金堂, 塔, 講堂, 回廊等の主要伽藍等が確認されている。今回, 寺跡西側の外郭施設を含む一画を追加指定する。

16 おおともし いせき 大友氏遺跡 【大分県大分市】

戦国大名大友氏の守護所が置かれた館跡とその菩提寺である万寿寺跡からなる遺跡。今回, 過去の発掘調査により, 内外に溝を伴う築地塀の存在が推定される箇所である大友氏館跡の北側を区画する一画を追加指定する。

《 名勝の追加指定及び名称変更 》 1 件

1 ピリカノカ

九度山 (クトゥンヌプリ) 黄金山 (ピンネタイオルッペ)
神威岬 (カムイエトウ) 襟裳岬 (オンネエンルム)
瞰望岩 (インカルシ) カムイチャシ

【北海道名寄市, 石狩市, 枝幸郡枝幸町・浜頓別町, 幌泉郡えりも町, 紋別郡遠軽町, 虻田郡豊浦町】

(旧名称 ピリカノカ 九度山 (クトゥンヌプリ) 黄金山 (ピンネタイオルッペ)
神威岬 (カムイエトウ) 襟裳岬 (オンネエンルム))

ピリカノカはアイヌ語で「美しい・形」を意味する。今回, 追加指定する比高約 78m の岩塊から成る「瞰望岩 (インカルシ)」は, アイヌの古戦場又は神祭の場と伝えられ, 「遠軽」の語源となったとされる。「カムイチャシ」は, 噴火湾に突き出た茶津岬の南端に位置し, アイヌの神聖な祭場, 海上の見張り台, 防御などの役割を持ったとされる。併せて, 名称を変更する。

《 名勝の追加指定 》 2 件

1 きゅうあきたはんしゆさたけしべつてい じょしてい ていえん 旧秋田藩主佐竹氏別邸 (如斯亭) 庭園 【秋田県秋田市】

旧秋田藩主佐竹氏別邸 (如斯亭) 庭園は江戸中期に久保田城下に造られたもので, 東北地方の大名庭園及びその文化を知る上で貴重である。今回, 庭園が営まれた別邸の空間構造を理解する上で不可欠となる別邸敷地の東南部分を追加指定する。

2 ひがしへんなざき 東平安名崎 【沖縄県宮古島市】

宮古島東端に突き出た全長約 2 km, 幅約 120~250m の岬で, 琉球石灰岩の海食崖に囲まれ固有の海岸性植物群落が展開する独特の自然環境とともに, 宮古島に特有の悲恋伝

承を持つ美しい景勝地。今回、「パナリ」と呼ばれる巨大岩礁を含む周辺の海域を追加指定する。

登録記念物の登録

《登録記念物（名勝地関係）の新登録》 2件

1 ^{きゅうやまざき し べつていていえん} 旧山崎氏別邸庭園 【埼玉県川越市】

天明3年（1783）に創業したと伝わる川越の菓子店亀屋^{かめや}の5代目嘉七^{か しち}の隠居所として、近代建築家の辰野金吾^{たつの きんご}の弟子である保岡勝也^{やすおかつ や}の設計に基づき、大正15年（1926）頃に完成した枯山水及び茶庭から成る庭園である。庭園の施工に当たったのは、「帝都造園組合」の設立に関わったとされる丸山林蔵^{まるやまりんぞう}であった。

敷地には部分に改変が見られるが、全体として当初の地割を良好に伝えている。洋館西面の玄関前庭から、主屋南側の主庭部へと園路が延びる。洋館のテラスや和館の客間・居間の沓脱石^{くつぬぎいし}から、南に向かって緩やかに下る傾斜面に打たれた飛石は、白川石^{け さがた}を袈裟形に加工した手水鉢の前を経て枯流れを渉り、茶室^{にじ}の躡り口へと達する。大正13年の保岡の設計図と比較すると、茶室の位置、方向、間取り等について変更されていることが判る。和館・洋館の建築とともに、保岡勝也が設計した茶庭を含む和風庭園の事例として意義深い。

2 ^{ふな き し ていえん} 松木氏庭園 【広島県三原市】

江戸時代末期から近代に酒造業などの商業により財を成した川口氏の別邸で、茶室・数寄屋建築の増改築に伴って順次造作が進んだ住宅の庭園。昭和2年（1927）に、現在の松木氏の所有となった。建築群の北と東に広がる平場、その背景として敷地北辺から東半部にかけて複雑に展開する築山、両者を結んで縦横に打たれた飛石・延段・石段、要所に配置された蹲踞^{つくばい}・手水鉢・井戸・燈籠など、面積に比して景観構成・景物は多彩で変化に富む。特に、築山は背面を2段の石垣で積み上げた高さ3mもの大規模なもので、石段付近の築山裾部には大きな景石を多用して見所のある景をつくり、頂部からの展望も意図された。建築群の北端の五畳茶室は19世紀半ばの茶人であった不二庵^{ふじあん}の遺作とされるほか、敷地北西隅部に建つ物見櫓の初層床面には花文の敷瓦による装飾が見られるなど、庭園とともに建築の随所にも特質が見られる。この時期における三原地方の庭園文化の一端を示す事例として意義深い。

重要文化的景観の選定及び追加選定

《 重要文化的景観の新選定 》 3件

1 くれ みなと りょうしまち けいかん 久礼の港と漁師町の景観 【高知県高岡郡中土佐町】

高知県高岡郡中土佐町に所在する久礼の港は、中世より近代にかけて、領域各地で生産された物資を関西方面へと搬出する主要な港の一つとして、また、他地域より物資や情報を吸収する重要な拠点の一つとして発達した。特に近世初頭には、家臣団居住地や城館を取り込み、港湾機能に重点を置く小規模な都市プランが形成され、現在の景観はこの構造に基づいて形成されたものである。久礼に残る建物には、激しい台風に見舞われる独特の風土と共生した記憶を示すものが多く、水切り瓦や土佐漆喰は、夏の暑さや高い湿度、あるいは暴風にさらされた暮らしの名残である。明治期には久礼、上ノ加江、矢井賀の三つの漁業組合が設立され、戦後には木材関連事業に変わって鰹漁が久礼の中心的な産業へと発展した。漁師町には家屋が密集し、庶民的な地区の中では玄関脇の流しで魚をさばく人々の暮らしを見ることができる。

このように、「久礼の港と漁師町の文化的景観」は、中近世に繁栄した港を核として形成された市街地が、鰹漁とともに発展した漁師町や漁港と相まって形成される独特の文化的景観である。

2 おぢかしょとう ぶんかてきけいかん 小値賀諸島の文化的景観 【長崎県北松浦郡小値賀町】

小値賀島は大小17の島嶼群から成る小値賀町の主島で、火山活動で形成された島々は複雑な地形とともに、各種の亜熱帯性植物や野生生物が根付く独特の風土を持っている。

笛吹の地名初見は明徳元年（1390）だが、この地域は遣唐使船の通過地点として古代にはすでに流通・往来における重要な拠点であったと考えられ、室町時代には日明貿易に基づく中世の港津として栄えた。島民は、古くより島嶼間を往来して農業や放牧を営む独特の生活様式を維持してきた。江戸時代になると、平戸藩の下で異教徒や異国船の監視を目的とする、押役所や遠見番所が設置された。笛吹の集落は、農村地帯の笛吹在と漁業者・各種職人・商業者等が混在する笛吹浦の2地区に大きく分かれて形成され、壱岐より移住した小田家が鯨組経営や、小値賀諸島外での新田開発、上方との海産物取引等の事業展開を行うことによって経済的に成長した。島嶼間を往来する生活は、参詣や生産の営みとして現在まで継承されている。

このように「小値賀諸島の文化的景観」は、多様な地形的特長を活用する島嶼間の流通・往来や近隣地域・諸国との流通・往来に基づいて発展した、港や居住地等によって形成される独特の文化的景観である。

3 あまくさし さきつ ぎよそんけいかん 天草市崎津の漁村景観 【熊本県天草市】

天草下島の南西部、羊角湾ようかくの北岸に位置する崎津では、中世には外国船が出入りする港として、近世から近代にかけては貿易や石炭搬出など流通・往来の拠点として、天然の良港を活かした港湾都市が形成された。現在、崎津はタイ・スズキ・イワシなど多様な魚種を水揚げする漁村集落として機能している。崎津浦の西側に展開する下町・中町・

船津では、狭隘な湾内のわずかな平坦地に家屋が密集し、浦へ出るために「トウヤ」と呼ばれる小路が数軒毎に形成されている。海上には、竹やシュロを利用した「カケ」と呼ばれる構造物が設けられており、漁船の碇泊や魚干しなど、生活・生業上の施設として利用されている。また、崎津浦の東側に展開する向江では畑作・稲作が行われており、林産品や漁期の労働力を崎津へ供給するほか、崎津諏訪神社の例祭では他の3区と協働している。

このように、崎津浦を囲んで一体的に展開する「天草市崎津の漁村景観」は、貿易や石炭搬出など流通・往来の拠点として、また豊かな漁業資源が集積する漁港としての機能を有する集落が、「カケ」や「トウヤ」などの特徴的な生活・生業上の施設を伴いつつ成立することによって形成された、独特の文化的景観である。

《 重要文化的景観の追加選定 》 1件

1 しまんとがわりゅういき ぶんかてきけいかん 四万十川流域の文化的景観 じょうりゅういき のうさんそん りゅうつう おうらい 上流域の農山村と流通・往来 【高知県高岡郡中土佐町】

四万十川上流域の狭い土地に農地を開墾し、新田開発を行うとともに、木材の輸送を通じて形成された文化的景観である。今回は、四万十川支流である萩中川、下ル川に展開する林業地と山村を追加選定する。